

大阪大学外国語学部・外国学専攻主催

第3回 ことばと出会うシンポジウム

あなたを彩る ことばはいくつ？

“ふくふく”を 生きるということ

今回のテーマは「^ふ複^く言語・^ふ複^く文化」。
各国にルーツを持ち、さまざまな分野で活躍する
方々からのお話を通して、自分自身に知らず知らず
のうちに彩りを与えてくれている「ことば」の存在に
目を向けます。

あなたの中の「ふくふく」を見つけてみてください。



野村 雅夫



サヘル・ローズ



染谷 西郷

2025年 10月19日(日)
13:00～16:00〈開場 12:15〉

箕面市立文化芸能劇場 大ホール
(東京建物 Brillia HALL 箕面)

定員 1400名(先着順)

参加費
無料

申込方法

お申し込みはこちらから
<https://ougaigosympo3.peatix.com>

申込締切: 2025年10月17日(金)

※申込多数の場合、早めに締切となる場合がございます。



問合せ先

大阪大学人文学研究科箕面事務部事業推進係
TEL 072-730-5013 または 5015(平日 10:00～17:00)
Email jinbun-minoh-jigyo@office.osaka-u.ac.jp



大阪大学



主催・企画 大阪大学外国語学部・大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻 共催 大阪大学大学院人文学研究科附属複言語・複文化共存社会研究センター
協力 大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学日本語日文化教育センター、大阪大学21世紀構想館 後援 箕面市、箕面市教育委員会、(公財)箕面市国際交流協会



あなたを彩ることばはいくつ？



● 13:00 開会挨拶 清水政明 (大阪大学大学院人文学研究科 外国学専攻長/附属複言語・複文化共存社会研究センター長)

13:10 「言葉を学んで心軽く」

たいていの人は、母語をひとつ身につけて育ちます。そして、たとえば日本なら、学校で英語を学ぶことで、言語がひとつではないことを、時にテストで苦労することを通して実感します。すると、身の回りにもたくさんの英語由来の言葉があることも気になるし、そもそも世界にはいろいろなものの見方、考え方、価値観があるのだということもわかってくる。

僕は母がイタリア人ですが、イタリア語はまったくできないまま高校を卒業し、大阪大学で初めてイタリア語を学びました。同時に、まったく違う地域の言語や習慣にも触れて、不思議な解放感を覚えたのです。なぜ異文化に触れることで心が軽くなるのか。経験論として話してみます。

野村 雅夫



13:50 「コトバと生きる～アナタに宿る言霊～」



私がお話をさせていただきたい事は、外からの声を皆様に届けること。

自分自身にコトバがそんなに宿っているのか？と、色彩を見出せない方に、難民キャンプで出会った子ども達が紡ぐコトバを通して、生きていること、今が「当たり前ではない」ことに気づき、会場にいらした方々が自分自身を愛せるヒントと皆さんの中に眠る感性が目覚め、そんな機会になれば幸いです。

自分をまずは知ることから「ふくふく」は始まると思うのです。

サヘル・ローズ



「ことばのポートレート」を描く



参加者の皆様には、会場で「ことばのポートレート」という、自分の中にあることばを表現した自画像を作っていただきます。どんなことばが、自分にとってどんな役割をもっているか、探し、見つめなおしてみましょう。

14:40 「音楽という言語」

南アフリカ人と日本人の間に生まれた自分にとっての言語は日本語と英語でした。しかし日本で生まれた自分にとって英語は「捨てた言語」でもありました。

しかし、音楽と出会い、この世界はつながり合える世界だ！ということにも気づきました。今回の公演では「音楽」というものも人と心を通わせる「一つの言語である」という立ち位置から、ライブを構成します。

染谷 西郷



15:10

(トークセッション)

「あなたを彩ることばはいくつ？」



それぞれ異なる立場から見た「ことば」について、客席の皆様も交えた参加型トークセッションを行います。

自分の中の「ふくふく」と向き合うと、あなたは、世界はどう変わるでしょうか？



● 16:00 閉会

大阪大学における複言語・複文化共存社会を目指した取り組み

**阪大
ふくふくセンター**
外国にルーツを持つ子どもたちの
学びを支える

目の前にいる子どもを〈日本語ができない子ども〉として見ますか。それとも〈複数のことばと文化を持つ可能性のある子ども〉として見ますか。子どもの可能性を奪わない社会を作っていく責任が私たちにはあるのです。



大阪大学大学院人文学研究科附属
複言語・複文化共存社会研究センター



詳しくはこちら



登壇者プロフィール



野村 雅夫

1978年、イタリア生まれ。日本で教育を受け、大阪大学大学院博士後期課程（当時は大阪外国語大学）満期退学。2008年からラジオDJとしてFM802を拠点に活動し、現在は姉妹局FM COCOLO CIAO 765（月-木、11-15時）を担当している。

イタリア文化を紹介する会社「京都ドーナツクラブ」代表として、映画の字幕製作や上映イベント、トークショーなどを行う。ダリオ・アルジェント自伝『恐怖』など、訳書多数。

「京都ドーナツクラブ」代表として、映画の字幕製作や上映イベント、トークショーなどを行う。ダリオ・アルジェント自伝『恐怖』など、訳書多数。



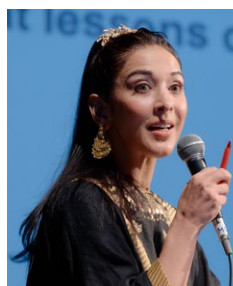
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/storyz/storyz_alumni/mapa20_alumni



染谷 西郷

ボーカル染谷西郷、ギター宮田泰治、ギターヨシロウにより、2000年に「FUNKIST」を結成。47全都道府県でのライブを達成し、南アフリカ、アジア、ヨーロッパ、アメリカなども含む年間100本を超えるライブで、世界所狭しと駆け回る生粋のライブバンド。『俺たちが鳴らせば世界

が踊る』を合言葉に、ジャンルレスな音楽で世界全てを抱きしめる。母が南アフリカ出身というバックグラウンドもあり、自分の生い立ちを含めた人権問題をテーマに年間70校ほどの学校でのライブ講演も行う。アニメ「FAIRY TAIL」主題歌やゲーム「テイルズシリーズ」のテーマ曲など多くのタイアップを手がけ、現在は楽曲「V-ROAD」がJリーグV・ファーレン長崎や高校野球、高校サッカーの応援チャントとして使用され全国的な広がりを見せている。



サヘル・ローズ

イラン出身。7歳までイランの孤児院で過ごし、8歳で来日。舞台『恭しき娼婦』では主演をつとめ、主演映画『冷たい床』ではミラノ国際映画祭をはじめとする様々な映画祭にて賞を受賞。映画・舞台の出演だけでなく、近年では映画監督などマルチに活躍し、2024年には自身

自身が監督を務めた『花束』が公開された。

芸能活動以外にも、個人で国内外問わず支援活動を続け、2020年にはアメリカで人権活動家賞も受賞。昨年はエッセイと自身初の絵本を同時発売するなど、表現者として活動の幅を広げている。



大阪大学箕面キャンパスは、OUGC（大阪大学グローバルキャンパス）として、外国語・外国学研究等の成果を介して地域の市民と世界を結ぶことを目指しています。

アクセス



箕面市立文化芸能劇場 大ホール (東京建物 Brillia HALL 箕面)

大阪府箕面市船場東3-10-1

- 大阪メトロ御堂筋線～北大阪急行電鉄「箕面船場阪大前」駅エントランス（駅南側メイン出入口）すぐ
- 阪急バス「箕面駅」から彩都線または箕面山麓線「箕面萱野駅」下車→北大阪急行電鉄「箕面船場阪大前」駅エントランス（駅南側メイン出入口）すぐ

箕面キャンパスには、駐車場・駐輪場がございません。お手数をおかけしますが、お車や自転車でお越しの場合は、周辺の駐車場・駐輪場をご利用ください。